



元気っ子

No 315 ながさわ保育園

園長 中瀬 弦 偉

日本の乳幼児教育が、小学校教育から影響を受けていることを様々な場面で感じる場合があります。それはハード面だけでなく、ソフト面である保育の内容も影響を受けてきたと思います。なので、保育の中の「五領域」は何となく学校の「五教科」のように捉えられてしまうことがあります。

例えば、学校の「体育」という教科で見ると、乳幼児教育では「健康」という領域が該当します。保育所保育指針の「健康」の取扱いを見ると、「心と体の健康は、相互に密接な関連があるものであることを踏まえ、子どもが保育士等や他の子どもとの温かい触れ合いの中で自己の存在感や充実感を味わうことなどを基盤として、しなやかな心と体の発達を促すこと。特に十分に体を動かす気持ち良さを体験し、自ら体を動かそうとする意欲が育つようにすること。」また、「様々な遊びの中で、子どもが興味や関心、能力に応じて全身を使って活動することにより、体を動かす楽しさを味わい、自分の体を大切にしようとする気持ちが育つようにすること。その際、多様な動きを経験する中で、体の動きを調整するようにすること。」「自然の中で伸び伸びと体を動かして遊ぶことにより、体の諸機能の発達が促されることに留意し、子どもの興味や関心が戸外にも向くようにすること。その際、子どもの動線に配慮した園庭や遊具の配置などを工夫すること。」

これらの書き方に比べて、小学校学習指導要領の「体育」では、その目標に「体育や保健の見方・考え方を働かせ、課題を見つけ、その解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって心身の健康を保持増進し豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。」「その特性に応じた各種の運動の行い方及び身近な生活における健康・安全について理解するとともに、基本的な動きや技能を身に付けるようにする。」

この保育所保育指針と小学校学習指導要領を比べて、その違いを簡単にまとめると、小学校での「体育」という教科は、各学年の目標にも「基本的な動きを身に付ける。」と掲げられているように、「〇〇ができるようになる」という、できるようになることを目標に掲げ、その教科の中で行っていくようになっています。それに比べて、保育園では、「自ら体を動かそうとする意欲が育つ」とか「楽しさを味わい、・ ・気持ちが育つようにすること」が目標となり、その手段として、教えるのではなく、「体験し」「様々な遊びの中で」「自然の中で伸び伸びと体を動かして遊ぶことにより」など、子どもの遊びや生活の中で体験して得ていくものであることが書かれています。

このように比較してみると、「健康」領域を保護者に披露する「うんどうかい」と、「体育」という教科の修得を保護者に披露する「運動会」では意図やねらいが随分違っていることが見えてきます。にもかかわらず、保育園のうんどうかいが小学校の運動会のミニチュア版になってしまっていることが多いように感じます。

今後も「元気っ子」で五領域についても触れていけたらと思います。11月もどうぞよろしくお願いいたします。